

個人情報保護について

上智大学は、在学生をはじめ、保証人や卒業生、教員等の個人情報を扱っていることから、その取扱いにあたっては、2003年4月に「個人情報の保護に関する規程」を制定し、個人情報の保護に取り組んできました。今後も国の法令を遵守し、教職員一人ひとりが、個人の人格尊重、個人情報の適正な利用と保護に努め、かつ必要な安全管理措置を講じてまいりたいと考えております。

各位のご理解とご協力をお願いいたします。

上智大学 個人情報保護方針

1. コンプライアンス・プログラム（個人情報の保護に関する方針、組織、計画実施、監査及び見直しを含むシステム）を策定し、これを組織的に着実に実施し、維持し、継続的に改善していきます。
2. 個人情報保護のための組織管理体制を確立するとともに、個人情報の収集、利用及び提供に際しては、所定の規程・規則を遵守し、適切な取扱いを実施します。
3. 個人情報の正確性及び安全性を確保するために、情報セキュリティ対策をはじめとする安全対策を実施し、個人情報への不正アクセス、紛失、破壊、改ざん及び漏洩等の防止に努めます。
4. 個人情報に関する法令及びその他規範を守ります。学内規程、制度をこれらの法令及びその他の規範に適合させていきます。

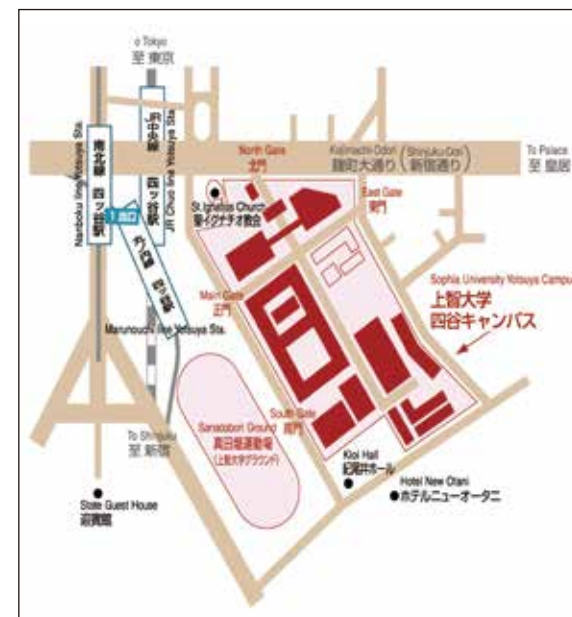
文部科学省「履修証明プログラム」
文部科学省「職業実践力育成プログラム（BP）」認定講座
厚生労働省「専門実践教育訓練給付金制度」指定講座

上智大学グリーンケア研究所

2018年度 グリーンケア人材養成講座(東京)／2年制 グリーンケア人材養成課程

出願要項

上智大学グリーンケア研究所



- 駅から JR中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線
四ツ谷駅 麹町口・赤坂口より徒歩3分
- お願い 駐車場はございません。公共交通機関でお越しください。

お問い合わせ・出願書類送付先

上智大学グリーンケア研究所
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
電話(03)3238-3776/FAX(03)3238-4661
E-mail: grieffcare@sophia.ac.jp

上智大学ホームページ URL <http://www.sophia.ac.jp>

グリーンケア人材養成講座は下記の助成事業および本講座の主旨にご賛同いただきました賛助会員様のご寄付により開講しております。

助成事業：

公益財団法人 JR西日本あんしん社会財団様 助成事業
一般社団法人 日本損害保険協会様 自賠責運用益拠出事業

賛助会員様：ANAホールディングス株式会社様
東日本旅客鉄道株式会社様
東海旅客鉄道株式会社様

1. 概要

募集定員：60名

開講期間：2018年4月～2020年3月(2年間)

春学期(4月～7月) 秋学期(9月下旬～1月)

水曜日

春・秋学期 各15週 18:45～20:15

土曜日(隔週、原則として、第1・第3土曜日)

春・秋学期 各8週 9:15～16:45

※上記の水曜日と土曜日以外に、2年間に3～4回程度、1日間の現場実習を行います。

※土曜日に個別指導を受講する場合は、18:30が終了時刻となります。

2. 出願資格

次の(1)および(2)のいずれの条件を満たす方。

(1) 専門的な知識・援助技術をもって、グリーフケアの実践に携わることが目的とする方

- ① 心身ともに健康である方
- ② 多様な思想・宗教・伝統・文化・価値観があることを謙虚に受け入れて、自己の成長を目指している方
- ③ 教員や他の受講生とのコミュニケーションを通して、相互研鑽を図ることができる方
- ④ 学習に支障をきたすような強いケアニーズを抱えていない方

(2) 次のいずれかの学歴または職歴を有する方

- ① 大学(短期大学を含む)を卒業、または卒業見込みの方
- ② 国内外において、学校教育における12年の課程を修了し、さらに専門課程を置く専修学校で2年以上の課程を修了、または修了見込みの方
- ③ 上記①および②と同等以上の学力があると認められる方
- ④ 社会福祉士、介護福祉士または精神保健福祉士の資格を有し、当該資格にかかる実務経験が10年以上ある方

なお、以下のいずれかに該当する方は、出願前に必ずご相談ください。

- ① 3年以内に家族との死別を経験している方
- ② 精神科または心療内科に受療中の方

3. 出願方法

- ① 出願期間：2017年11月13日(月)～2018年1月22日(月)【当日消印有効】
- ② 出願は、出願期間内に受験料を銀行振込いただき、出願書類を郵送することにより完了します。
- ③ 定型外の封筒をご用意いただき、表面に所定の「上智大学グリーフケア研究所グリーフケア人材養成講座」宛の送付状を貼り、必ず簡易書留にて郵送ください。
- ④ 出願を受け付けましたら、2018年2月2日(金)までに受験票をお送りします。

4. 受験料

受験料：30,000円

指定の口座(別紙参照)に銀行振込のうえ、振込領収書の写しを台帳に貼付のうえ、出願書類と一緒に送付してください。

5. 出願書類

- ① 願書[本学所定用紙](写真貼付)
 - ② エントリーシート[本学所定用紙]
 - ③ 受験料振込金領収書等写台帳[本学所定用紙]
 - ④ 小論文
- ※ 出願書類に記載する氏名および生年月日は、戸籍簿(外国人は住民票)と一致しているか、ご確認ください。
- ※ 出願書類の記載事項に虚偽があることが判明した場合は、合格あるいは入学を取り消すことがあります。

6. 選考日程

出願期間	面接試験	合格発表	合格者手続期間
2017年11月13日(月)～ 2018年1月22日(月) (当日消印有効)	2018年2月11日(日) 10:00～17:00	2018年2月16日(金) (郵送にて通知)	2018年2月19日(月)～ 2018年3月9日(金)

7. 選考方法および合格発表

- ① 選考は、書類選考および面接選考にて行います。
- ② 出願者には、必ず面接選考を受けていただきます。
- ③ 合格発表は、郵送にて通知します。合格者には手続書類を同封します。

8. 入学金・受講料

入学金 20,000円(入学の際のみ)

受講料 1年目 240,000円(半期ずつ、分割で納入)

2年目 240,000円(半期ずつ、分割で納入)

※ 厚生労働省「専門実践教育訓練給付金制度」の適用を受けた方は、入学金及び受講料の40%が給付金として支給されます。

9. 受講手続

合格者手続期間に、入学金および受講料を納入するとともに、入学手続書類を郵送してください。なお、入学手続が完了した方が受講を辞退する場合は、2018年3月31日(土)までに、書面にて申し出てください。入学金を除いた受講料を返還します。

文部科学省「履修証明プログラム」

グリーフケア人材養成講座は、2017年度より学校教育法その他関連法規に基づく「履修証明プログラム」です。「履修証明プログラム」とは、大学等における社会人等に対する多様なニーズに応じた体系的な教育、学習機会の提供を促進することを目的とするものです。

グリーフケア人材養成課程に入学した受講生が、所定の単位を修得して修了する際、学校教育法の規定に基づくプログラムであること及びその名称等を示した「履修証明書」を交付します。

文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」

グリーフケア人材養成課程は、2017年4月、文部科学大臣から「職業実践力育成プログラム(BP)」として認定されました。

「職業実践力育成プログラム(BP)」とは、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた、主に社会人を対象とした実践的・専門的なプログラムで、社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を図ることを目的としています。

厚生労働省「専門実践教育訓練給付金制度」

グリーフケア人材養成課程は、2017年4月、厚生労働省が認定する「専門実践教育訓練給付金制度」の指定講座となりました。

専門実践教育訓練給付金制度とは、働く方の主体的な能力開発の取組み又は中長期的なキャリア形成を支援するため、教育訓練受講に支払った費用の一部を支給する制度です。

本給付金制度の申請は、入学前の事前手続が必要ですので、希望される方は、早めの準備をお願いします。支給対象者、支給額および申請手続等、詳細については、居住地のハローワークにお問合せいただくか、ハローワークインターネットサービスをご覧ください。

URL: https://www.hellowork.go.jp/insurance/insurance_education.html

申請書類等をご入用の方は、グリーフケア研究所でもお渡しします。

グリーフケア人材養成講座が目指すもの

【養成する人材像】

上智大学の教育精神、“Men and Women for Others, with Others - 他者のために、他者とともに生きる者”に基づき、死生学を基盤とし、さまざまな喪失によるグリーフ（悲嘆）を抱える個人や共同体に対して、スピリチュアルケアを提供できる人材の養成を目指します。

グリーフを抱える個人や共同体が持っている死生観やスピリチュアリティの多様性を前提として、スピリチュアルな課題（スピリチュアルペイン）に直面している悲嘆者に対し、ケア対象者・ケア提供者が共に各自の死生観・スピリチュアリティを十全に生き共存できるケア関係の構築を目指し、深い臨床理解とダイナミックなケア実践ができる人材を養成します。

具体的には、医療、保健、社会福祉、介護、教育、宗教活動、その他、臨床の現場での対人援助の専門職としての活動において、グリーフケア、スピリチュアルケアを提供できる人材、あるいは、遺族会・患者会等のサポートグループのファシリテーション、ケア提供者のピアケアのリーダーシップを取れる人材を養成します。また、ボランティアとして、医療・福祉等の現場、事件・事故あるいは災害等の現場、その他さまざまな現場において、グリーフ（悲嘆）を抱えた方々に寄り添い、耳を傾けることで、ケアを行うことができる人材を養成します。

【グリーフケア人材養成課程の3つのポリシー】

「臨床傾聴士」の資格認定に求められる基準（ディプロマ・ポリシー）

- ① 課程修了に必要な単位を取得していること。
- ② 身体的・社会的・心理精神的な健康と有機的関連を持つスピリチュアルな健康について、知的・情緒的・実践的に理解していること。
- ③ 自身の中で働き、また将来を導くスピリチュアリティの力動とその背景を、自分自身の課題として理解し、それに継続して取り組む準備ができていないこと。
- ④ 宗教並びにスピリチュアリティの公共的役割について理解していること。
- ⑤ 現代社会のさまざまな宗教・思想・伝統について共感的かつ批判的に理解していること。
- ⑥ 自らのスピリチュアリティをケアの素材として提供しつつ、ケア対象者のスピリチュアリティの涵養を目指す基本的な活動をすることができること。
- ⑦ 上記①から⑥までの基準を満たしているかどうかを判定する総合審査に合格すること。

グリーフケア人材養成課程の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

- ① 講義において、グリーフケア、スピリチュアルケアに関する本質的な理解を得るとともに、演習・グループワークを通して実践的に学ぶ。
- ② グリーフケア、スピリチュアルケアに関する知識・技能を修得するとともに、ケア者に必要とされる意識態度、またグリーフケア、スピリチュアルケアにとって重要となる多様な価値観、宗教観・死生観を学ぶ。
- ③ スピリチュアルケア提供者を目指す受講者自身が、教育的に構成された場で互いにスピリチュアルケアを受けられることを通して、ケアを総合的・実践的に学ぶ。
- ④ 常に、受講者・指導者・研究所職員また援助対象者を含むすべての関係者が互いに尊厳を尊重し、各自のスピリチュアリティの涵養を目指す。

グリーフケア人材養成課程の受講生の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

- ① 宗教者・対人援助職従事者もしくはそれらに準ずる立場に必要とされる、基本的なケア実践力またはその資質を持っていること。
- ② スピリチュアルケアに固有な人間観とそれに基づくケア実践力を身につけることを目指していること。
- ③ 講義および演習またグループワークを含む授業形態での学習において受講生相互の成長を目指す意志があること。
- ④ 学習に支障をきたすような強いケアニーズを抱えていないこと。

グリーフケア人材養成講座の課程

グリーフケア人材養成課程（2年制）（本出願要項の課程）

グリーフケア人材養成課程（2年制）は、次のような人材の養成を行う課程です。

- ① 医療、保健、社会福祉、介護、教育、宗教活動、その他、臨床の現場で対人援助の専門職としての活動において、グリーフケア、スピリチュアルケアを提供できる人材を養成します。
- ② 遺族会・患者会等のサポートグループのファシリテーション、またケア提供者のピアケアのリーダーシップを取れる人材を養成します。
- ③ ボランティアとして、医療・福祉等の現場、事件・事故あるいは災害等の現場、その他さまざまな現場において、グリーフ（悲嘆）を抱えた方々に寄り添い、耳を傾けることで、ケアを行うことができる人材を養成します。

【時間割】（予定）

学年	曜日	時間	春学期		秋学期	
			科目名	単位数	科目名	単位数
1年次	水曜日	18:45～20:15	グリーフケア原論	2	キリスト教人間学	2
	土曜日 (隔週)	9:15～10:45	宗教学	2	スピリチュアルケアと芸術	2
		11:00～12:30	基礎演習	2	グリーフケア援助演習Ⅰ	2
		13:30～15:00				
		15:15～16:45	個別指導Ⅰ	1	個別指導Ⅱ	1
17:00～18:30	グリーフケア臨床訪問実習Ⅰ		1			
不定期	—					
2年次	水曜日	18:45～20:15	グリーフケア援助論	2	スピリチュアルケア原論	2
	土曜日 (隔週)	9:15～10:45	グリーフケア援助演習Ⅱ	2	総合演習	2
		11:00～12:30	臨床倫理	2	死生学	2
		13:30～15:00				
		15:15～16:45	個別指導Ⅲ	1	個別指導Ⅳ	1
17:00～18:30	グリーフケア臨床訪問実習Ⅱ		1			
不定期	—	合計修得単位数				30

【科目の紹介】

「グリーフケア原論」

グリーフケア人材養成講座での学びの入門科目であり、グリーフケアとは何かについて全体像を学びます。人間科学的な援助とは異なり、思想・宗教・伝統・文化の歴史性・多様性に注目しつつ行われるグリーフケアの理論的理解を深めます。

「宗教学」

原始から現在に至るまでのさまざまな諸宗教の思想と歴史を学び、ケア対象者・提供者の背景にある思想・宗教・伝統・文化について理解を深めます。

「キリスト教人間学」

上智大学の教育理念に関わる科目です。特にこの科目では、キリスト教のスピリチュアリティと、その様々な展開と歴史社会とのかかわりについて理解を深めます。

「スピリチュアルケアと芸術」

日本のスピリチュアルケアにおいて最も新しい領域です。芸術的感性とスピリチュアリティの関わりについて学び、音楽・美術その他の芸術を通してケアについての理解を深めます。

「グリーフケア援助論」

さまざまな臨床現場でのケア実践者を招きます。グリーフケアの広がりを実際に知る機会です。医療現場に限らず、福祉、教育、産業の現場、また災害、事故・事件、自死に関わるケア、さらには公認されない悲嘆についても学びます。

「臨床倫理」

ケアの現場で直面する倫理的課題について学びます。倫理は規則ではありません。唯一の正解を求め得ないパラドキカルな状況での課題への取り組みの方法、また実践における倫理の実際について学びます。

「スピリチュアルケア原論」

グリーフケアが「悲嘆」という事態に注目しケアする学問的実践的領域であるのに対し、スピリチュアルケアは、すべての人に本来備わっているスピリチュアルティとその働きに注目します。最終学期の科目として、これまでの学びを異なる観点から再統合する機会を提供します。

「死生学」

さまざまな死生観を学ぶとともに、効率や実績を重視する現代社会の支配的価値観では捉えきれない諸問題を死生学的課題と理解し、より人間の本質に接近した立場から取り組みます。

「基礎演習」

演習とグループワークを通して、ケア提供者自身の自己理解を深めます。

「グリーフケア援助演習Ⅰ」および「グリーフケア援助演習Ⅱ」

演習とグループワークをとおして、グリーフケア・スピリチュアルケアの援助技術について実践的に学びます。特に「援助提供者を志す者が、教育的に構成された場で互いにケアし合うことを通して、ケアについて学ぶ」という教育を実現します。

「総合演習」

演習とグループワークをとおして、ケアの提供者として必要とされる能力技能を仕上げます。

なお、基礎演習、グリーフケア援助演習Ⅰ、グリーフケア援助演習Ⅱおよび総合演習では、一般的な演習やグループワークだけでなく、瞑想やボディーワークなどを取り入れて、ケア提供者のスピリチュアリティを涵養する機会を設けます。

「個別指導Ⅰ」、「個別指導Ⅱ」、「個別指導Ⅲ」および「個別指導Ⅳ」

教員との個人面談をとおして、受講生個々人の課題の明確化に取り組みます。

「グリーフケア臨床訪問実習Ⅰ」および「グリーフケア臨床訪問実習Ⅱ」

受講生と実習先のスケジュールを調整し、2年間の間に3～4回程度、少人数のグループに分かれて遺族会や患者会等を訪問し、実際にグリーフケアの現場を体験します。

グリーフケア資格認定課程（1年制）（2019年度より開講）

グリーフケア資格認定課程（1年制）は、グリーフケア人材養成課程（2年制）の修了者を対象とした課程です。2017年度にグリーフケア人材養成課程（2年制）入学する受講生が修了する2019年度より開講します。

グリーフケア資格認定課程（1年制）は、グリーフケア、スピリチュアルケアの専門職を養成するための課程であり、本課程の所定の単位を修得し、総合審査に合格した者は、日本スピリチュアルケア学会が認定する「スピリチュアルケア師（認定）」審査受験資格を得ることができます。

2018年の秋学期に、グリーフケア人材養成課程（2年制）の受講生から志願者を募集し、グリーフケア人材養成課程（2年制）の所定の単位を修得し、かつ、総合審査の判定結果が優秀な方で、選抜試験に合格した方を対象とします。

募集定員：18名（予定）

開講期間：2019年4月～2020年3月（1年間）

春学期（4月～7月） 秋学期（10月～1月）

水曜日 春・秋学期 各15週

土曜日（隔週、原則として、第1・第3土曜日）春・秋学期 各8週

※上記の水曜日と土曜日以外に、2019年2月から3月と、2019年8月から9月に、各1週間の集中実習を行います。また、1年間を通しての通年実習（合計100時間）を行います。

【時間割】（予定）

曜日	時間	春学期		秋学期	
		科目名	単位数	科目名	単位数
水曜日	18:45～20:15	精神医学・精神保健	2	先端医療・緩和医療	2
土曜日	9:15～10:45	臨床心理とグリーフケア	1	ソーシャルワークとグリーフケア	1
	11:00～12:30	文献講読Ⅰ	1	文献講読Ⅱ	1
	13:30～15:00	実習スーパービジョンⅠ	2	実習スーパービジョンⅡ	2
	15:15～16:45				
	17:00～18:30	個別指導Ⅴ	1	個別指導Ⅵ	1
集中	—	集中臨床実習・演習Ⅰ	2	集中臨床実習Ⅱ	2
合計修得単位数					18

資格認定

【臨床傾聴士】

「グリーフケア人材養成課程」（2年制）の所定の単位を修得し、総合審査に合格した修了者には、上智大学グリーフケア研究所が認定する「臨床傾聴士」の資格を授与します。

グリーフケア、スピリチュアルケアにおいて、ケア提供者の役割は、グリーフ（悲嘆）やスピリチュアルな痛みを抱えた方に寄り添い、そして、その方の思いに耳を傾けることにあります。「臨床傾聴士」の名称は、「寄り添い」と「傾聴」の重要性によるものです。

【スピリチュアルケア師】

グリーフケア人材養成課程（2年制）の修了者を対象とする「グリーフケア人材養成講座資格認定課程」（1年制、2019年度から開講）を修了し、総合審査に合格した者は、日本スピリチュアルケア学会が認定する「スピリチュアルケア師（認定）」審査受験資格を得ることができます。

修了後の活動

【修了後の活動】

グリーフケア人材養成講座の受講生のうち、医療、介護、福祉、教育、宗教その他さまざまな領域で「対人援助職」に従事してる方は、修了後、職務を通してグリーフケア、スピリチュアルケアを実践することになります。

受入れ先の実習機関で、引き続き修了後もボランティアとして活動する方、既存の遺族会やボランティア団体で活動される方、あるいは新たにNPO法人等を設立して、グリーフケア、スピリチュアルケアの活動を開始される方もいます。

なお、グリーフケア人材養成講座資格認定課程に進んで「スピリチュアルケア師（認定）」の資格取得を目指す方、さらに、「スピリチュアルケア師（専門）」の資格取得を目指して、グリーフケア人材養成課程専門課程に進まれる方も多数います。また、グリーフケア、スピリチュアルケアについてさらに研鑽を深めるべく、上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻をはじめ、大学院に進学する修了生も多数います。

【グリーフケア研究所による修了生へのフォローアップ】

グリーフケア研究所では、「グリーフケア人材養成講座修了生の会」を設け、修了生ための講演会の開催や修了生の研究・活動の報告の場の提供、また修了生同士のコミュニケーションを支援するなど、修了生がさらに研鑽を積むことができるよう支援します。

スピリチュアルケアとグリーフケア

世界保健機関 (WHO) は、1999年、健康の定義について、「身体 (physical)」、「精神 (mental)」、「社会 (social)」、そして「スピリチュアル (spiritual)」という4つの要素があることを提案しています。

健康が損なわれたとき、あるいは何らかの危機に直面して、生きる拠り所が揺れ動いたり見失われてしまったとき、身体の領域では、極度の疲労、頭痛や不眠、食欲不振や持病の悪化など、さまざまな肉体的変調をきたすことがあります。精神の領域では、悲しみや怒り、罪悪感や自責の念、孤独感や疎外感、抑うつなどを引き起こすことがあります。また、社会の領域では、家庭内の役割や社会的立場の変化、あるいは経済的な悪影響も起こることがあります。

そして、スピリチュアルな領域において、自己喪失感、疎外感、空虚感といったスピリチュアルな痛み (ペイン) を感じて「人はなぜ生まれて死んでいくのか」、「なぜ自分だけにこういう事が起こったのか」、「死んだ人はどこに行くのか」、「残りの人生に価値はあるか」、「私は何か悪いことをしたのか」など、答えることのできない事柄を自問自答するようになることがあります。それを癒す働きが「スピリチュアルケア」です。

「グリーフケア」は、スピリチュアルケアと同義ではありませんが、スピリチュアルケアに包含さえる概念であり、スピリチュアルケアの主要な領域の一つです。

「グリーフ (Grief)」とは、深い悲しみ、悲嘆、苦悩を意味する言葉です。グリーフ (悲嘆) は、さまざまな「喪失」、すなわち、自分にとって大切な人やものや事柄を失うことによって起こります。喪失によってグリーフを感じるのは自然なことであり、グリーフの表れ方はさまざまですが、誰もを経験するものです。

人生には、必ずさまざまな喪失が付きまといます。最も大きな喪失は、家族やかけがえのない人との死別です。特に、災害や事件・事故、あるいは自死など、予期せぬ形で家族と死別は、重篤な喪失体験であって、大きなグリーフとなる可能性が高くなります。また、人生には、死別以外にもさまざまな喪失が起こります。たとえば、病気や怪我によって身体の一部を失う、伴侶や両親が重い病となる、老化により、体力や視覚・聴覚が衰える、ペットを亡くす、退職やリストラにより、生きがい・仕事・社会的身分・自尊心を失う、災害により住居や財産を失う、など、グリーフ (悲嘆) を起こします。

グリーフケアとは、スピリチュアルの領域において、さまざまな「喪失」を体験し、グリーフ (悲嘆) を抱えた方々に、心を寄せて、寄り添い、ありのままに受け入れて、その方々が立ち直り、自立し、成長し、そして希望を持てるようになるように支援することです。

グリーフケアを必要とする現場は、たとえば緩和ケアなど、人間らしい死に方を求める患者へのケア、家族に亡くなられた遺族へのケア、あるいは、がん医療、在宅医療などの医療の現場、大地震や台風・水害などの災害の現場、航空や鉄道、あるいは自動車などの事故、あるいは犯罪被害など、事件事故現場、その他、福祉や介護の現場や、自死遺族への支援、葬儀での遺族など、さまざまなおこがあります。

スピリチュアルケア師について

「スピリチュアルケア師」は、日本スピリチュアルケア学会が認定する学会資格であり、「認定資格」、「専門資格」、「指導資格」の3つの段階があります。

スピリチュアルケア師の認定制度は2013年度にスタートしました。2016年度現在、全国に8つ養成機関があり、2017年度までに「認定」資格221名、「専門」資格64名、「指導」資格69名に資格が付与されました。

なお、日本スピリチュアルケア学会のこれらの資格は、5年ごとに更新が必要であり、5年間の間に学会が定める基準に合致しないと更新が認められません。

上智大学では、グリーフケア研究所が開講する「グリーフケア人材養成課程 (2年制) の修了者を対象とする「グリーフケア人材養成講座資格認定課程」(1年制、2019年度から開講) を修了し、総合審査に合格した者は、日本スピリチュアルケア学会が認定する「スピリチュアルケア師 (認定)」審査受験資格を得ることができます。さらに、「スピリチュアルケア師 (認定)」の資格を取得した方を対象として、専門課程 (1年制) を2018年度から開講します。

また、「スピリチュアルケア師 (認定)」の資格を得た者が、上智大学大学院実践宗教学研究科修士課程で所定の単位を修得した場合、日本スピリチュアルケア学会が認定する「スピリチュアルケア師 (専門)」審査受験資格を得ることができます。

臨床宗教師について

「臨床宗教師」とは、被災地や医療機関、福祉施設などの公共空間で心のケアを提供する宗教者です。

「臨床宗教師」という言葉は、欧米の聖職者チャプレンに対応するもので、宗教者が自らの宗教宗派の布教や伝道を目的とせず、相手の価値観、人生観、信仰を尊重しながら、宗教者としての経験を活かして、苦悩や悲嘆を抱える人々に寄り添い、さまざまな専門職とチームを組み、宗教者として全存在をかけて、人々の苦悩や悲嘆に向きあい、かけがえのない物語をあるがまま受けとめ、そこから感じ取られるケア対象者の宗教性を尊重し、「スピリチュアルケア」と「宗教的ケア」を行うものです。

臨床宗教師の呼称は、チャプレン、ビハーラ僧、パストラルケアワーカー等を包み込み、宗教宗派を超えて宗教者が協力する願いがそこに込められており、仏教、キリスト教、神道など、さまざまな信仰を持つ宗教者が協力し合い、2016年2月、「日本臨床宗教師会」が設立されました。

上智大学グリーフケア研究所が開講するグリーフケア人材養成講座は、日本スピリチュアルケア学会が認定するスピリチュアルケア師の養成プログラムであるとともに、日本臨床宗教師会が認定する臨床宗教師養成プログラムとなり得るものです。日本臨床宗教師会が認定する「臨床宗教師」の資格基準等は、今のところ公けにされておませんが、日本臨床宗教師会が認定する「臨床宗教師」の資格を取得できる可能性があります。

上智大学グリーフケア研究所について

グリーフケア研究所は、日本で初めてグリーフケアを専門とした教育研究機関です。グリーフケアに携わる人材を養成するとともに、調査研究を通して、日本におけるグリーフケアの理解・啓発を行い、グリーフを抱える者「悲嘆者」がケアされる健全な社会の構築に貢献することを目的として2009年4月に設立されました。

2005年4月25日にJR西日本の福知山線で発生した列車脱線事故の教訓を生かし、社会に役立つ取り組みの一環として、事故のご遺族の方々をはじめとした悲嘆者に対するグリーフケアを実践するために役立つことを目的に、「JR西日本及び公益財団法人JR西日本あんしん社会財団」の全面的なご支援により、公開講座「『悲嘆』について学ぶ」、そしてグリーフケアの実践を遂行できる専門的な知識・援助技術を備えた人材を育成するグリーフケア人材養成講座を開講しました。

2010年4月、グリーフケア研究所は上智大学に移管され、上智大学大阪サテライトキャンパス (大阪市北区) と東京の四谷キャンパスの2ヶ所で活動しています。

上智大学グリーフケア研究所は、グリーフケアや死生学に関する研究、研究会の開催、諸文献の収集及び紀要、著作などの刊行を行うとともに、「グリーフケア人材養成講座」を、大阪サテライトキャンパスでは2009年度から、東京四谷キャンパスでは2014年度から開講しています。

また、2010年度から「グリーフケア公開講座『悲嘆について学ぶ』」を東京四谷キャンパスで開講しています。2017年度には、龍谷大学との共催により、上智大学大阪サテライトキャンパスにて「グリーフケア公開講座『悲嘆について学ぶ』」を開講しています。

グリーフケアの人材を養成し、普及・啓発を行うことで、悲嘆者が悲嘆者として存在を認められ、ケアされる社会、すべての人々が互いに支え、支えられながら生きる共生社会の実現に寄与していきたいと考えています。

所長 島 蘭 進 (上智大学大学院実践宗教学研究科委員長、東京大学名誉教授)



死別や別離による悲嘆は人間の複雑さや奥深さを如実に表す経験です。かつては堅固な型をもった宗教は悲しみに向き合い、悲しみから力を得ていく場を提供していました。しかし、現代人は型通りの祈りや儀礼を通してだけではなかなか満足できません。自らの納得がいくような死生観や癒しの方法を身につけたいと願っていることが多いのです。それはまた自らの人生や環境にふさわしい創造的な向き合い方を生み出していくことにも通じます。上智大学グリーンケア研究所はこうした求めに応じ、現代人にふさわしいグリーンケアのあり方を学ぶ場を提供します。それはまた、ケアの仕事とスピリチュアリティの出会いの場を作っていくことでもあります。「慈悲」や「無常」の語に代表されるように、日本文化は悲しみを表現する豊かな伝統をもっています。ここで深めようとしているグリーンケアの学びは、日本人なりのスピリチュアルケアのあり方を探っていくことにもなるはずです。

特任所長 高木 慶子



「花の命は短くて、苦しきことのみ多かりき・・・」(林 芙美子)「何が起こってもおかしくない・・・」と、思われる現代社会に私どもは生きておりますが、現実に本人にとって大事なものを喪失し、悲嘆の状態に置かれた場合、どのような不安と苛立ちを感じるのでしょうか。そのような状況にあるとき、近くにあって支え、励ましてくれる人がいたら、どんなにか心強く感じられるのではないのでしょうか。また、そのような人々の存在によって、心身も健康を回復し、明るい生活を取り戻されるのではないかと思います。そのように「悲嘆にある人々」に寄り添い、信頼される「グリーンケア(悲嘆ケア)」の担い手を育成することを目標に、本研究所は活動を続けております。このような人材育成は、今後ますます社会的な要請となってくると考え、多くの方々よりのご理解とご支援をお願いいたしますとともに、この研究所をご一緒に盛り上げていただき、より良く安定した社会構築を目指して参りたいとお願いいたしておりますので、皆様方のご協力をこころよりお願いいたしております。



大島 泰江

特定非営利活動法人 訪問看護ステーションコスモス (2015年度修了)

研究所での2年間は、改めて「人と出会う」ということを知る時間でした。座学では人間存在の奥深さを学び、加えて実習では、先生の指導を受けつつ研修生同士でケアし合いながら、ケアとは何かを体験し、質の高い関係を築くための訓練を受けました。絶対にわからない他者に寄り添っているという謙遜な姿勢が、祈りに通じ、訪問看護師である自分をも支えているということを実感しています。ケアする共同体で得た共に学ぶ仲間存在も大きな拠り所となりました。その人の人生の物語を紡ぐ、支える医療を目指して、皆さんと一緒に歩みたいと願っています。



坂川 健

上智大学大学院実践宗教学研究科死生学専攻在籍 (2015年度修了)

「寄り添う」ということが、こんなにも奥深いものであったとは。すべての人は皆それぞれが自分の心の奥底に哀しみや苦しみを抱えています。人材養成講座での2年間で、私は自らの持つ苦悩に対峙し、共に学ぶ仲間たちとのダイナミクスの中でその苦悩をケアされる体験を通じて、「寄り添う」ケアを学びました。問題解決型の思考をしていた私にとっては目から鱗が落ちるような思いでした。小手先の技術を身につけたわけではありません。私自身のケアの姿勢が変容した結果、相手の方との出会いが奥行きを持ちました。深みある一期一会のかかわりを可能としたのです。この学びはグリーンケアだけでなく、あらゆる対人援助職の深みを増すことに寄与できると確信しています。



武田 光世

江戸川区健康サポートセンター嘱託/ラビリンス ウォーク・ジャパン (2015年度修了)

基礎コース*での二年間の座学はどのような意味を持ちうるのでしょうか。私は心理職として子どもの発達相談に携わると同時に、海外でホスピスや追悼の場に導入されている「歩く黙想」の活動をしています。関連する学問や実践を学び、レポートを書いて考えを磨き直すことで、「グリーンケア」という広い領野の中で自分の実践が果たしている役割とその価値を掴み直すことができました。

ケアテイカーであり続けるということは学び続けるということです。同期生の中には臨床コース*や大学院に進んだ方もおられます。私は日本スピリチュアルケア学会に入会しました。共に学ぶ仲間との繋がりを得たことも、この二年間の大きな実りです。

(※ 2014~2015 年度開講のコース名称)

グリーンケア研究所所員

所 長	島 蘭 進	上智大学大学院実践宗教学研究科委員長
特任所長	高木 慶子	生と死を考える会全国協議会会長、カトリック援助修道会修道女
副 所 長	鎌田 東二	上智大学グリーンケア研究所特任教授
	伊藤 高章	上智大学大学院実践宗教学研究科教授
所 員	浅見 昇吾	上智大学外国語学部ドイツ語学科教授
	大塚 晃	上智大学総合人間科学部社会福祉学科教授
	大橋容一郎	上智大学文学部哲学科教授

所 員	高山恵理子	上智大学総合人間科学部社会福祉学科准教授
	高山 貞美	上智大学神学部神学科教授
	武田なほみ	上智大学神学部神学科教授
	寺田 俊郎	上智大学文学部哲学科教授
	西山 悦子	上智大学総合人間科学部看護学科教授
	横山 恭子	上智大学総合人間科学部心理学科教授
研 究 員	篠田 美香	
	榎本 香織	

研究補助員	西脇 大成	
客員教授	葛西 賢太	宗教情報センター研究員
客員所員	大柴 譲治	日本福音ルーテル大阪教会牧師
	岡村 毅	東京都健康長寿医療センター研究員
	柏木 哲夫	淀川キリスト教病院理事長、大阪大学名誉教授
	窪寺 俊之	聖学院大学大学院客員教授
	瀬良 信勝	医療法人鉄蕉会亀田総合病院チャプレン
	土居 由美	聖マリアンナ医科大学研究技術員

客員所員	西岡 秀爾	花園大学社会福祉学部准教授、崇禅寺副住職
	ベッカー・カール	京都大学「政策のための科学ユニット」特任教授
	松田真理子	京都文教大学臨床心理学部教授
	松本 信愛	医療法人ガリア会常務理事、ガリア病院チャプレン、上智大学大阪サテライトキャンパス長
	水嶋 章郎	順天堂大学医学部教授
	水谷 修	花園大学客員教授、水谷青少年問題研究所所長
	森 清顕	清水寺執事補、塔頭泰産寺住職